

第5次 地域福祉（活動）計画

重点取組

市民一人ひとり（企業や関係団体などを
含む）が、自分たちの強みを生かし、で
きる範囲の中で地域の活動に参加する。
そして、やりがいを持って楽しみながら、
つながれる場をつくっていきます。



計画は市 HP から
ご覧いただけます



どうする？ 地域の担い手確保

5月に第5次地域福祉（活動）計画を策定。行政や専門職、そして市民がともに地域共生社会を作り出していく見取り図を描く計画です。北川市長と名張市地域福祉推進協議会の永田会長が、地域共生社会の維持・拡大に不可欠な地域の担い手確保などについて意見交換しました。

☎ 医療福祉総務室 ☎ 63 - 7579 ※計画に掲載の対談記事を再編集してご紹介します。

市長 まちづくりに関わる若者や学生などが参加したワークショップと市民総選挙により、令和5年度に、市民発のブランドロゴ「ななとかなる」が誕生しました。これは、シティプロモーションの取組の一環です。お互いが支え合う「地域共生社会」を表現する名張らしいロゴで、とても気に入っています。

永田 「ななとかするなばり」ではないのいいですね。

市長 ロゴについては、「ななとかなる」とはい加減、なるようになるなんて無責任、行政がなんとかするなら分かるけれど」といった声も。このロゴは、生きづらさを感じて人たちに、名張にいたら、名張に来たら、助けてくれる人がいるよ、また、みんなで力を合わせて「ななとかなる」未来をつくっていくという強いメッセージを発しているんです。

永田 行政が「ななとかする」だと、住民は完全に受け身になってしまう。もちろん、行政の「ななとかする」という下支えも必要ですが、周りの助けもあるから「ななとかなる」ということですね。

永田 本計画では、支援の受け手が支え手にもなれるとしています。そんな社会を創っていくためには、人と人が出会う機会や場が必要。多様な人たちが出会うことで化学反応が起きて、新しい取組が生み出されます。福祉だけではなく、いろんな分野から多様な人がつながり、楽しんで取り組めるようになればいい。それに、「自分とつながっている人だから、ななとか助けたい」という気持ちも生まれてくると思うんです。

市長 シティプロモーションの目的は、自発的・主体的に動く「活動人口」を増やすこと。地域の魅力を多く挙げられる人ほど、地域のために何かしたいと思う傾向にあるようです。まずは地元愛を高めながら、人と人のつながりをつくっていきたいと考えています。

永田 シティプロモーションと地域福祉の取組を掛け合わせながら進めていけるといいですね。人口が減少していく中、持続可能な取組としていくために、ソーシャルキャピタル（人々の健康や幸せを促進するための社会的なつながりや信頼関係）をいかに築いているかが求められます。



市長 ワークショップでは、人と人のつながりが強くて、あたたかくて、支え合えることが、名張の魅力であることが共有されました。地域共生の取組が若い世代にも浸透していったんですね。

永田 市民の皆さんと一緒に頑張って共生のまちを築き上げてきたことが、このロゴに表れてきたんだと感じますね。一方で、計画策定委員から課題として出されていたのが担い手不足。団塊世代をはじめとする地域共生社会の担い手が高齢化してきています。

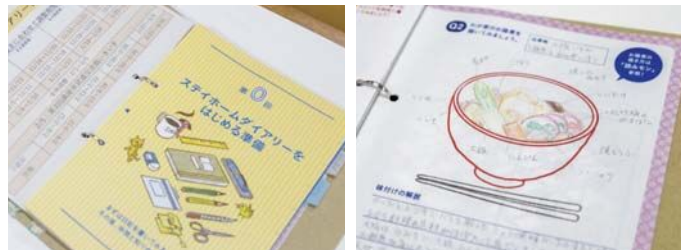
市長 地域の担い手確保に特効薬はありませんが、若い世代のアクションが広がっていくことで、他

市長 人と人のつながりが強く、温かいところが名張の最大の魅力です。これを強固なものとしていくことで、地域福祉の向上につなげていきたいですね。

永田 ただ、地域づくりを20年やってきて、疲弊してきている面もあると思います。いかに世代交代をしていけるかが重要。いろんな人に、いろんな方法で活躍してもらいたいと思いますよ。

市長 いろんな人がいろんな思いで活動をしていますから、関わり方も多様であるといいですね。

永田 別の自治体で、ボランティアセンターの登録者が増えているという話を聞いて驚きました。生活困窮などの相談に対応しながら、得意なことを聞くそうです。料理が得意と聞くと「今度こんなことをしませんか」と話し、ボランティア登録をもらうのだと言います。助けを求める一方で、自尊心もありますから、「得意なことがあれば、助けてくれないかな」と聞いてみるのもいいかもしれません。得意なことの話をするときは、皆さんすごく楽しそうな顔になるのだそうですよ。



参加者募集 3人1組での交換日記、始めよう！ ステイホームダイアリー

多世代のメンバーで構成される3人1組のグループで交換日記をしませんか？日記は8月から来年3月まで月1回程度のペースで回し、楽しかったことや困ったこと、悩んでいることなど、日常の出来事をつづれば、翌月には日記仲間からのコメントが。顔合わせの場は3回ほど。

参加者からは、「自分を見つめなおす機会になった」「新しいことを始めるきっかけに」「メンバーからの温かい言葉に元気をもらった」などの声が寄せられています。

日記に興味のある人や、他世代と交流したい人、地域活動に関心のある人は、ぜひご参加ください！



応募フォーム

申込 7月14日(月)までに、応募フォーム、もしくは、各地区まちの保健室などでご相談ください（応募者多数の場合は選考）

名張を愛する全ての人・団体・企業の皆さん！

市民発の「ブランドロゴ」をご活用ください



ロゴのデータや活用方法、グッズなど詳しくは市HPをご覧ください

▶ロゴは市HPからダウンロードできます。記念品やグッズ、ラッピング、広報紙、事業所の名刺など、さまざまなところでご活用ください（商用使用は要申請）。

ブランドロゴのメッセージが伝わる活用方法を検討中！

▶皆さんの名張で「なんとかなった」エピソードを基に、カードゲームや4コマ漫画など、「ブランドロゴ」に込められたメッセージが広く伝わる活用方法を市民ワークショップで検討。新たな展開は、市HPや市公式SNSなどで発信していきます！

☎ 広報シティプロモーション推進室 ☎ 63・7402

交換日記で つながりづくり しませんか？



子どもが不登校になり、悩んでいたところ、まちの保健室で勧められて「ステイホームダイアリー」に参加。交換日記のメンバーは、普段接点がない人たちばかりで、気軽に「自分らしさ」を出せる居心地のよい場所でした。

世代や立場が異なる人とつながる中で、「いろんな考えがあつていい。自分がどう生きたいかが大事なんだ」と気付かされ、「まずは、子どもたちの気持ちを大切にしたい」と思えるようになりました。



不登校の子どもをもつひろちゃんも3年前に参加。小冊子や広報なばり(R5)でもご紹介



←小冊子「つながるこそだて」

参加者の声

☎ 地域包括支援センター ☎ 63・7833

永田 同志社大学の学生たちも地域で活動していますが、なかなか続かないことも多いようです。地域の人から「地域活動とはこういうもの」「こういう気持ちでやらないと」と、一生懸命に話をしてくれるのですが、ついつい説教になってしまつて、楽しくないらしいんです。若い世代を引き込むのであれば、「なにかアイデアはない？」と聞いてみたり、学生たちが主役になっているように演出したいですね。

市長 人の役に立って「ありがとう」といわれると人間はうれしいもの。得意なことを生かしながら、みんなで支え合うことができればいいですね。



てみると、活動に関わってもらう手法を工夫する必要があるのかもしれない。

市長 国の職員に「なぜ名張は地域づくりに成功したのか」とよく質問されます。都市内分権を進める中、住民には転入者も多く、多様性のある人材が地域にそろっていたことなどを挙げるのですが、「全国でそのようなところはたくさんありますよ」となるんです。

永田 名張には、おもしろくて、飾らない人が多いからかな。人懐っこさもあって、人のために何かしようという気持ちが強い。

市長 もともと名張で住んでいた人と大阪から来た人とが混ざり合つて、ちよつとよくなったのかな。まちの保健室のキャッチコピーも「マイルドにおせっかい」ですから。

永田 まちの保健室は、もはや「マイルドにおせっかい」なのかも。すぐくパワフルで、単に相談にのつてもうとうところというより、すぐく元気をもらえるところ。まちじゅうの「マイルドなおせっかい」を「マイルドなおせっかい」

が支えているような感じがな。

市長 住民主体の地域づくりが土台にあって、まちの保健室の取組がうまく機能している側面もありますよ。

永田 そうですね。他の自治体だと、住民から「何とかしてくれ」という要望を受ける場所になりそうですが、名張の場合は、サービスの支え手と受け手という関係に留まらない。特に、地域を見守る民生委員と、民生委員の情報を頼りにするまちの保健室が、お互いに必要とする関係性があります。地域づくり組織も巻き込んで、地域に根付いたトライアングルでやってきた。これから、その輪を広げていけるといいですね。

市長 「福祉」分野に関係なく、つながっていきそうな企業や団体を巻き込んでいける仕掛けも求められているんだと思います。実際に、福祉の枠にとらわれずに地域の多様な活動に参加し、つながりを生んでいる団体もあります。いろんな人の活動が補完し合うことで、地域に多様な人材を引き込んでいくことができるのではないのでしょうか。

支え合いの社会を築くためには、人と人が
出会う機会や場が必要。多様な人たちが
会うことで化学反応が起きていく。



人と人のつながりが強くて、温かいところが
名張の魅力。これを強固なものとしてい
くことで、地域福祉の向上につなげたい。